

# 農林水産省大臣官房長賞

## 『完食チャレンジ』

奈良県葛城市立忍海小学校 四年 辻本 愛奈

「やった！また今日も完食だ。」

空っぽになったおなべをのぞきこんで、みんな笑顔になりました。

私達四年一組は、給食完食チャレンジに取り組んでいます。きっかけは、担任の先生の一言でした。

新学期が始まり、何日目かの給食を食べ終えた時、お味そしるの入ったおなべや、野さいが入っていた食缶には、ひっそりと今日の給食たちが残っていました。

「みんなの食べ残した給食はごみになっちゃうんだよ。もつたいないよね。」

残ったおかずたちが泣いているように見えました。食べ残しをこっそり入れる子も後ろめたそうです。みんなどこかで、これで本当によいかと思っていました。どう言いい出せば良いか分からずいたので。その時誰かが、

「じゃあみんな完食を目指そうよ。」

その言葉につられて、みんなが口々に言い始めました。

「オレ、カレーやったら三杯いけるわ。」

「ちくわの天ぷらなら、何本でもいけるねんけど。」

「私らやったら絶対できるんちゃう。」  
みんなの残したらもつたいないという思いがあふれ出しました。そこから、どうすればみんな完食が出来るかクラスで話し合いました。まず、苦手なおかずの時も残さず食べる、そして、おなかに余ゆうがある時は、おかわりをする、おかわりをしてくれる子がお休みの時は、みんな分担して完食を目指す、という案が出され、私はわくわくしてきました。みんな一つのことに取り組めることがうれしくてたまらなかつたからです。休み時間にこんだて表を見ながら、クラスがえで話したことがなかつた子とも、会話がひろがりました。こんだて表をよく見ると、私達が成長するために必要な栄養素が毎日まんべんなく入っていて、地場産物もたくさん含まれていました。だから、毎日あきることなくおいしく食べられることに気付きました。まるで給食は私達の成長を支えてくれる影のヒーローのように思いました。

私達は入学してからずっと黙食でした。友達の声を聞くことができないう給食の時間はとても味気なくつらい時間でした。けれども、この完食チャレンジに取り組むことで、黙食をしてもみんなの思いは一つと感ずることが出来ます。心の中で、おいしいね、今日も完食しようねと笑顔で話しながらクラス全員が一つの目標に向かって進める給食の時間が大好きになりました。一日も早くおしゃべりしながらみんなで楽しく給食をかこめる日がくることをねがっています。その日が来るまで、とぎれることなく完食チャレンジを続けていきたいです。